論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル：

Associations between broader autism phenotype (BAP) and maternal attachment are moderated by maternal postpartum depression when infants are one month old: A prospective study of the Japan Environment & Children's Study.

和文タイトル：

母親の自閉症傾向特性と子どもへの愛着形成との関連性について

ユニットセンター（UC）等名：　大阪UC

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名：　Journal of Affective Disorders

年：2019　月：　巻：243　頁：485-493

筆頭著者名：　廣川空美

所属UC名：　大阪UC

目的：

広義自閉症傾向(BAP)とは、行動や認知的な特性が自閉症スペクトラムに類似していることを意味している。本研究は出産前の母親のBAP特性が出生後1カ月児への愛着と関連するか、また産後うつ症状がBAP特性と児への愛着を緩衝するのか検証した。

方法：

87,396名の精神疾患、発達障害の既往歴を除外した母親を対象とした。妊娠中期(MT2)時に測定したBAPをAQ-J-10 (Kurita et al., 2005)で測定し、児への愛着については出生後1カ月時のMIBS (Yoshida et al., 2012)から5項目を使用した。産後うつ症状はEPDS(岡野ら, 1996)を用い、産後うつ症状がある群はカットオフ値9点を用いた。

結果：

母親のBAPは産後うつ症状及び、出生後1カ月児への愛着のなさとも正の関連を示した(p for trend <0.001)。産後うつ症状のある群とない群に層別化して検討した結果、BAPの下位尺度のうち、産後うつ症状のない群において社会的スキルとコミュニケーション力は児への愛着のなさと正の関連を示した。産後うつ症状のある群では社会的スキル、コミュニケーション力と児への愛着との関連が弱められた。

考察：（研究の限界を含める）

自閉症の診断を受けた子どもの親は、社会的スキルやコミュニケーション力が低いことが示されており、自閉傾向のある母親は出生後に産後うつを発症しやすい傾向も示された。本研究では、産後うつ傾向が高い母親では想像力の欠如によって児への愛着がより阻害される可能性が示唆されており、自閉傾向のある母親に対する産後うつを予防することが児への愛着形成に求められることが分かった。しかし、愛着を測定するMIBSの尺度が本来10項目にも関わらず5項目しか使用されていないという限界がある。

結論：

母親のBAPは産後うつ症状を高め、児への愛着を阻害していることが示された。また、産後うつ症状が、母親のBAPと児への愛着形成の関連を緩衝している可能性が示唆された。